

# 令和7年度【2025年度】とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	キッズステーションのびのび保育室
施設所在地	荒川区西日暮里4-13-7グリーンハイツⅡ
事業者名	株式会社 祐育舎

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】水、木、土など自然の流れの中で実際に五感を使って体験し、好奇心や探求心を促進していく。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

のびのびと自然の中で身体を動かして遊ぶことで、自然と周りへの関心や、探求心を育むことを目指している。普段の公園とは違う大きな自然の中で、五感を使って自然の流れや自然そのものを感じ、新たな発見や体験を通して探求心を深めていけると考えたため。

## 2. 活動内容

日程：9月7日(日)

場所：奥多摩の森（株式会社東京・森と市庭の所有林）

内容：【木・土】伐採体験・木工体験・沢遊び・森林探索

日程：10月26日(日)

場所：葛西臨海水族館

内容：【水】海の生物見学、磯の生態体験

日程：1月21日(水)

場所：キッズステーションのびのび保育室

内容：【木】木の遊び場作り・木工体験・木製玩具の香りと触感体験

## 3. 活動のために準備した道具、環境の設定

・自然体験

レンタルバス、東京・森と市庭プログラムの利用（自然体験ならびに木の遊び場作り体験）

レクリエーション保険加入

葛西臨海水族館の見学

遊び場作成用の排水マット

自然と親しむ庭作りとして、草花、園芸用土、肥料、その他園芸用品

保護者への活動報告用としてプロジェクター

## 4. 活動風景

### 9月自然体験

朝早くからバスに乗って奥多摩まで行きました。



森の中を歩き、森の匂いや光のさし方の違いを感じました。左右の森の違いなどをスタッフの方がクイズで教えてくれます。



### 木の伐採体験

大きな音に、おっかなびっくり。パパやママも一緒に大きな木を切る体験をしました。

※伐採はプロの直接指導を受けて安全に配慮しています。



### 木工体験

保育園の保育士と一緒に木工体験を通して生きた木の感触や匂いに触れました。

好きな大きさに丸太を切って、思い思いの色や絵をかいて、穴をあけてメダルにしたりネックレスにしていました。



## 沢遊び

敷地内に流れる沢で、水の冷たさや気持ちよさを感じたり、普段は出会わない生き物に触れて、探求心に火が付いたようでした。



## 自然体験での保育士の気づき

- ・ 普段とは違う景色に最初は戸惑っている様子だったが、遊び方を思いつくと普段よりも生き生きと遊び始めていて、こどもの適応能力の速さや思考の柔軟性に驚かされた。
- ・ 沢では大きな岩の上をバランスを上手に取りながらわたっていて、普段の身体を使ったあそびはしっかりと意味のあることであったと再認識した。
- ・ 木の匂いを「いいにおい」「きらいなおい」と感じて表現する力。カニの目の位置を探す、隠れている生き物を探す。こどもたちの五感の鋭さ、気になったことはとことんやってみる探求心の深さに再度感動した。
- ・ 0歳児には早いと思っていたが、伐採体験では楽しそうに手を伸ばしたり、バギーではバスの中とは違って大きな声でテンションが上がる様子を見て、年齢月齢に関係なく何かを経験・感じることは大切であると再認識した。
- ・ こどもたちが自由に楽しむ姿を見て、保育者側の見守りやサポートの方法を考える大切さを感じた。

普段は見ることもない大きな魚と水槽に圧倒されていました。

水族館では磯を再現したスペースがあり、波の音、潮の匂い、水の冷たさを直に感じる事が出来ました。

また、そこに住む生き物を探したり、じっくり観察して探求心が刺激されていました。



### 水族館見学での保育士の気づき

- ・大きな水槽を前に怖がる子どももいると思っていたが、普段目にするものもない生物に興味深々といった様子で見入っていて、こどもたちの探求心に驚かされた。
- ・磯体験が出来るところでは「なんのにおい？」と磯野独特の匂いに気が付いて面白がっていた。
- ・岩の間に何がいるのかを真剣に探していて、集中力がどんどん上がっていることに感動した。
- ・「おっきいね」「かわいいね」と生き物の大きさによって感じ方や表現方法を分けていて成長を感じた。
- ・水族館の見学を通して、身体的な発達だけでなく、感受性や探求心の成長も感じ、改めて乳幼児期の大切さを感じた。

## 1月遊び場づくり

9月の自然体験で切った檜の一本木を使って、遊び場に設置する椅子やテーブル。太鼓橋などが園に到着。端材を使って9月に参加できなかった子どもたちも木工体験を実施。カンナ屑プールを設置して木の感触を楽しみました。



## 木工体験

たくさんある端材の中から気に入ったものを選び、好きな形に加工してもらったり、好きな色や絵をかって自分だけのおもちゃを作成しました。



丸太ベンチを玄関に設置して、みんなで休憩。

丸太の椅子やテーブルなどを木琴の様にたたいて、音の違いを楽しんでいました。



### 遊び場づくりでの保育士の気づき

- ・ カンナ屑の匂いを嗅いで「いいにおい」「くさい」などの感受性の違いに改めて驚かされた。
- ・ 一度木をたたいて出た音が面白くて、椅子やテーブルなどを叩いて音の違いを楽しむ様子は好奇心や探求心の成長を感じることができた。
- ・ 端材を選びながら「これくつつくんじゃない?」と言って実際に合わせるとくっ付いていた。創造力に整合性が出来てきていてびっくりした。
- ・ こことここをくっつけて欲しい、ここに穴をあけて欲しい。と自分から要求して何かを形作って行く姿に、想像力の成長を感じた。
- ・ 自分たちで考えて形にするために、保育士が適切なサポートをして、実現した時の満足そうな表情を見て、達成感を感じることは大切なことなんだと再認識することができた。
- ・ 既存のおもちゃではなく、ただの端材などでも子どもたちには立派な玩具となることを改めて感じた。よく考えられた玩具もとても有用だが、子どもたちが自ら考え作り出すための素材もとても大切であると感じた。